

諏訪の景気動向

平成28年5月

(平成28年4月末 D・I調査)

平成28年5月30日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

諏訪地方の景気動向（平成 28 年 4 月末調査）

「平成 28 年 4 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 201 社のご協力を得て行った平成 28 年 4 月末の「景気動向調査(DI調査)」では、回答全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 3.0$ となり、大幅悪化した前回調査時(平成 28 年 1 月末、以下同)の $\Delta 21.1$ から、18.1ポイント改善した。製造業の業況判断DIは $\Delta 2.2$ で、前回の $\Delta 22.7$ から20.5ポイント改善した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIも $\Delta 5.0$ で、前回の $\Delta 17.7$ から12.7ポイント改善した。一方、「3ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が1.4(前回1.5)とほぼ横ばいで、非製造業は8.3と前回の12.9より悪化し、回答全社では3.5(前回5.2)となっている。4月は円高、株安傾向の中で、熊本地震や三菱自動車の燃費データ不正問題が発生した。数は少ないものの、諏訪地方でもこの影響を受けた企業があり、今後の動向を懸念する見方もある。4月からスタートした電力小売り自由化は、光熱費の削減効果を感じる企業もあるが、今のところ様子見の企業が多い。御柱祭は諏訪地方ならではの特需となった業種がある反面、マイナスの影響が強かった業種もある。

製造業の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは前回の $\Delta 28.0$ から1.4へ改善し、収益性DIも前回調査時の $\Delta 24.2$ から $\Delta 9.9$ へ改善している。「前年同期」との比較では、業況判断と受注状況は改善しているものの、収益性DIは前回と同様な水準となっている。また、「3ヶ月後」の予想DIは業況判断が横ばいで受注状況、収益性は改善傾向となっている。総体的に自動車関連は低調に推移しているが、省力化、搬送機械など設備関連などが好調を維持している。

熊本地震は、90%の企業が影響を受けていないが、関連企業の被災や取引先の生産ラインが止まるなどの影響を受けた企業がある。半面、同業者の被災で仕事が期間限定で回ってきたとする企業もある。3ヶ月後の予想は様々だが、悪化予想が好転予想をやや上回り、物流を含む生産再開の遅れを懸念する企業がある。

三菱自動車の不正問題では、三菱系の受注が止まり、他のメーカーの受注が増加した企業がある。取引先が三菱系を扱っているため、今後影響が出ることを懸念する企業もある。海外向けの車種を扱ったり、海外工場で受注がある企業は、ブランド力の低下を懸念する。「タカタ、VW、三菱と、自動車関連の不祥事が続いており今後が心配」とする声があった。自動車関連では地震と不正問題両方の影響を受けた企業もあった。

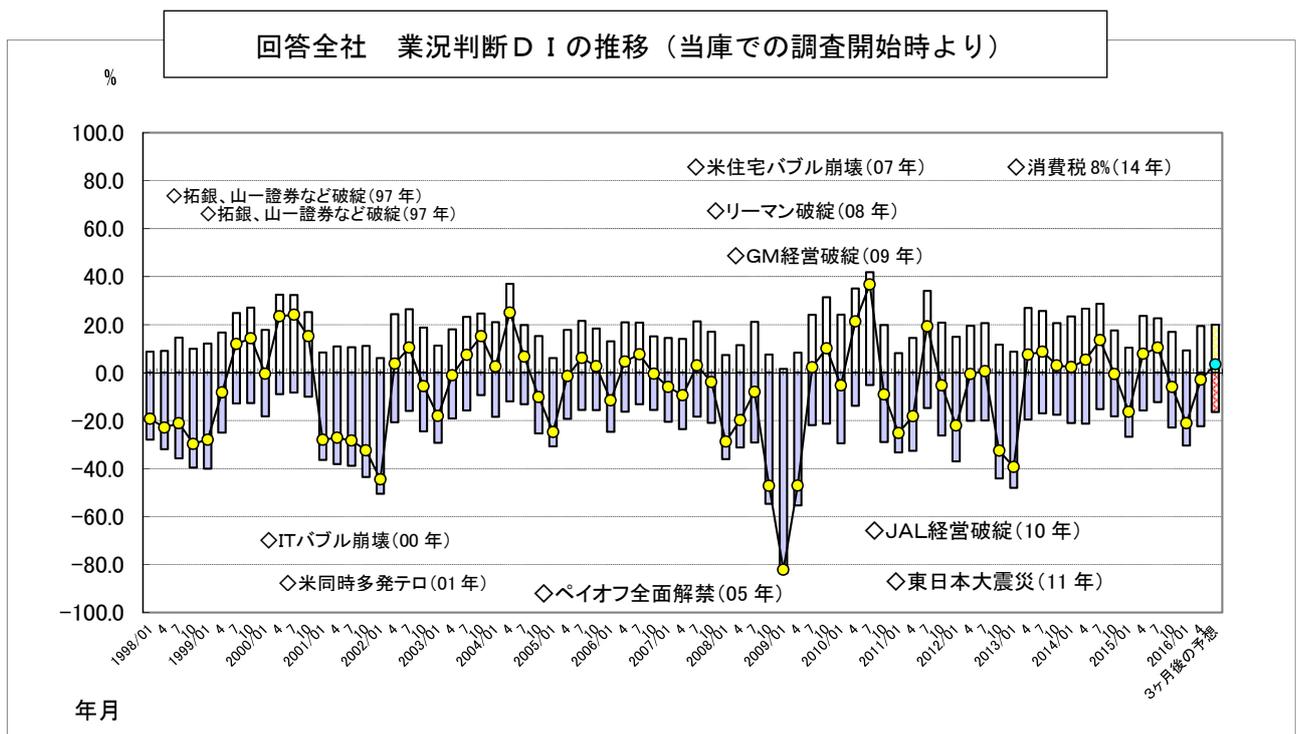
商業は、業況判断DIが「3ヶ月前」と比べて3.4で、前回の $\Delta 16.7$ から改善した。御柱祭は仕出し料理や飲料をはじめ、法被などの御柱グッズで特需となる一方、一部の飲食店や書店、ブライダル関連などでは来客数が減少するマイナスの影響もあった。自動車販売は、諏訪地方の4月の車庫証明件数(軽自動車除く)が818件で、前年同月比では73件減少($\Delta 8.2\%$)した。三菱自動車の不正問題が、軽自動車に対する顧客不信をおおる結果となり、増税以降の停滞に加えてさらに悪化を懸念する企業もある。

観光・サービス業は、「前年同期」と比べた業況判断DIは37.5と、前回調査時の0.0から改善した。御柱祭効果で、諏訪湖周辺の施設を中心に国内旅行客の宿泊人数が増加した。ただ、祭りの開催日が限られていることから、諏訪地方全体では経済効果に限定的な面もあった。好調に推移していたインバウンドは減少した。高地

では、スキー場が前年より早めに閉場する施設が多く、桜の開花が早かったことでGWにタイミングが合わず、集客に苦慮した施設が見られた。「3ヶ月後」の業況予想DIは18.7、宿泊客数予想DIは25.0で好転予想の企業が多い。一方で、経営上の課題に、労働力確保とともに、人件費を上げる企業が増えている。

建設業の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて△40.0で前回調査時の△12.5から大幅に悪化した。「前年同期」比でも△40.0で前回の△18.8から悪化した。「3ヶ月後」の業況予想DIは前回同様0.0となっている。受注状況DIは「3ヶ月前」比は△33.4で前回の△25.0から悪化した。「前年同期」比では△33.3で前回の△31.3とほぼ同様に推移しているが、「3ヶ月後」の予想は△6.7で前回の△25.0から改善した。業界全体が御柱祭に目が向き、顧客も従業員も祭りにかかっているため、受注が停滞し、動きは鈍化している。諏訪地方の平成28年3月の新設住宅着工戸数は59戸で、前年同月比14戸減少(△19.2%)した。平成27年4月～平成28年3月の累計着工戸数は985戸で、前年同期比7戸増加(0.7%)したが、2年連続で1000戸の大台を割った。平成28年4月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は0件だった。また、市町村からの受注工事は、合計44件、270百万円で、前年同月比件数は2件減、契約金額は5百万円増加した。

雇用状況は、平成28年3月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.10ポイント上回り、前月を0.04ポイント下回る1.26倍となった。1倍台は24ヶ月連続。長野県は1.31倍で、全国は1.30倍だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,579人で前年同月比64人減少(△3.9%)した。新規求職者数は896人で前年同月比92人減少(△9.3%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、運輸業で81.0%、飲食店・宿泊業で30.5%増加したが、卸・小売業で20.8%減少した。求人の要因別では「継続する人員不足」「業務量増大」「創業・新分野展開」が増加し、「欠員補充」が減少した。1件10人以上の人員整理は1件で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は36人で、前年同月より26人減少し、前月より7人増加した。



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(201社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業が19.4%、「横這」企業が58.2%、「悪化」企業が22.4%で△3.0と、前回調査時の△21.1から18.1ポイント改善した。前回に比べて、製造業は、「好転」企業が9.1%から17.7%へ増加し、「悪化」企業が31.8%から19.9%へ減少した。総体的に諏訪地方の企業は、熊本地震や三菱自動車の不正問題の影響は少なく、設備関連業種などが堅調に推移した。非製造業は、「好転」企業が前回の9.7%から23.3%へ増加したが、「悪化」企業も27.4%から28.3%へ増加した。商業や観光は御柱祭効果などでプラス水準だが、建設業の悪化が大きく響いた。全ての業種でマイナス水準だった前回より改善傾向となっているが、業種や企業によって業況に格差も見られる。

産業別業況表

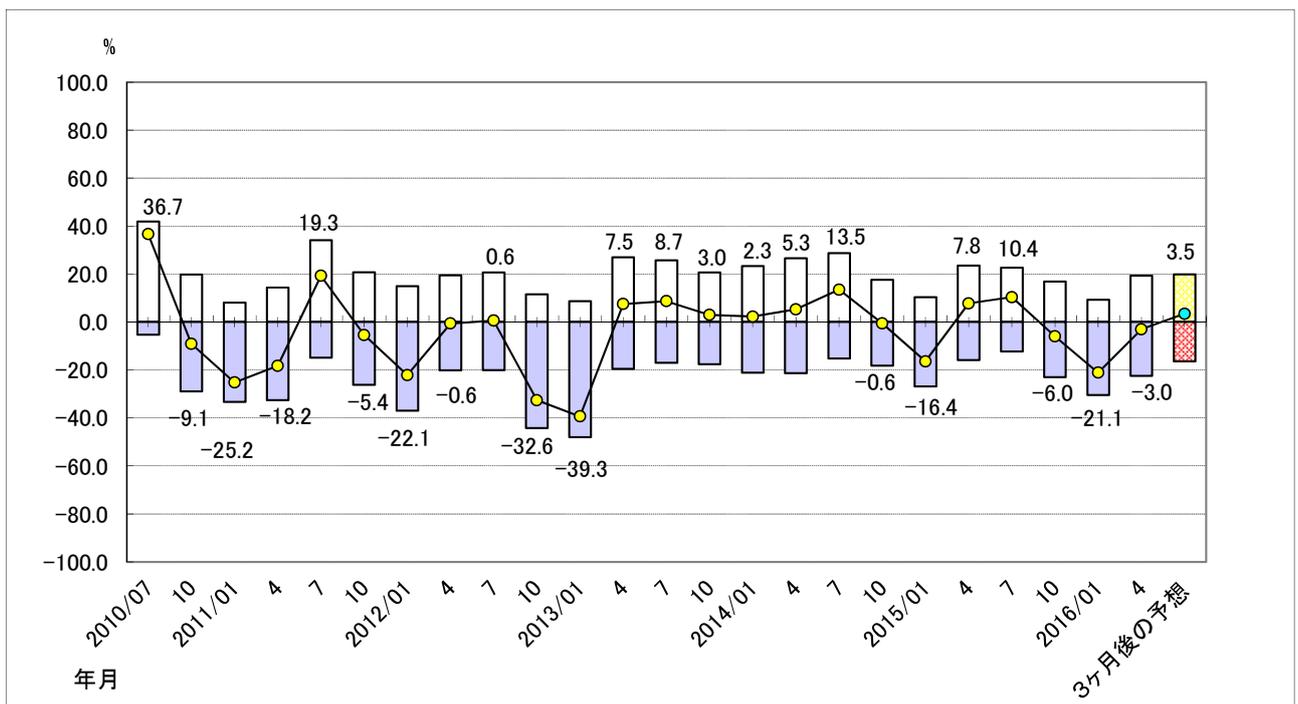
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	201	19.4	58.2	22.4	-3.0	201	23.9	47.3	28.9	-5.0	201	19.9	63.7	16.4	3.5
製造業	141	17.7	62.4	19.9	-2.2	141	22.7	46.8	30.5	-7.8	141	17.7	66.0	16.3	1.4
非製造業	60	23.3	48.3	28.3	-5.0	60	26.7	48.3	25.0	1.7	60	25.0	58.3	16.7	8.3
商業	29	31.0	41.4	27.6	3.4	29	31.0	41.4	27.6	3.4	29	24.1	58.6	17.2	6.9
建設業	15	0.0	60.0	40.0	-40.0	15	0.0	60.0	40.0	-40.0	15	13.3	73.3	13.3	0.0
観光・サービス	16	31.3	50.0	18.8	12.5	16	43.8	50.0	6.3	37.5	16	37.5	43.8	18.8	18.7

自社業況判断DIの推移

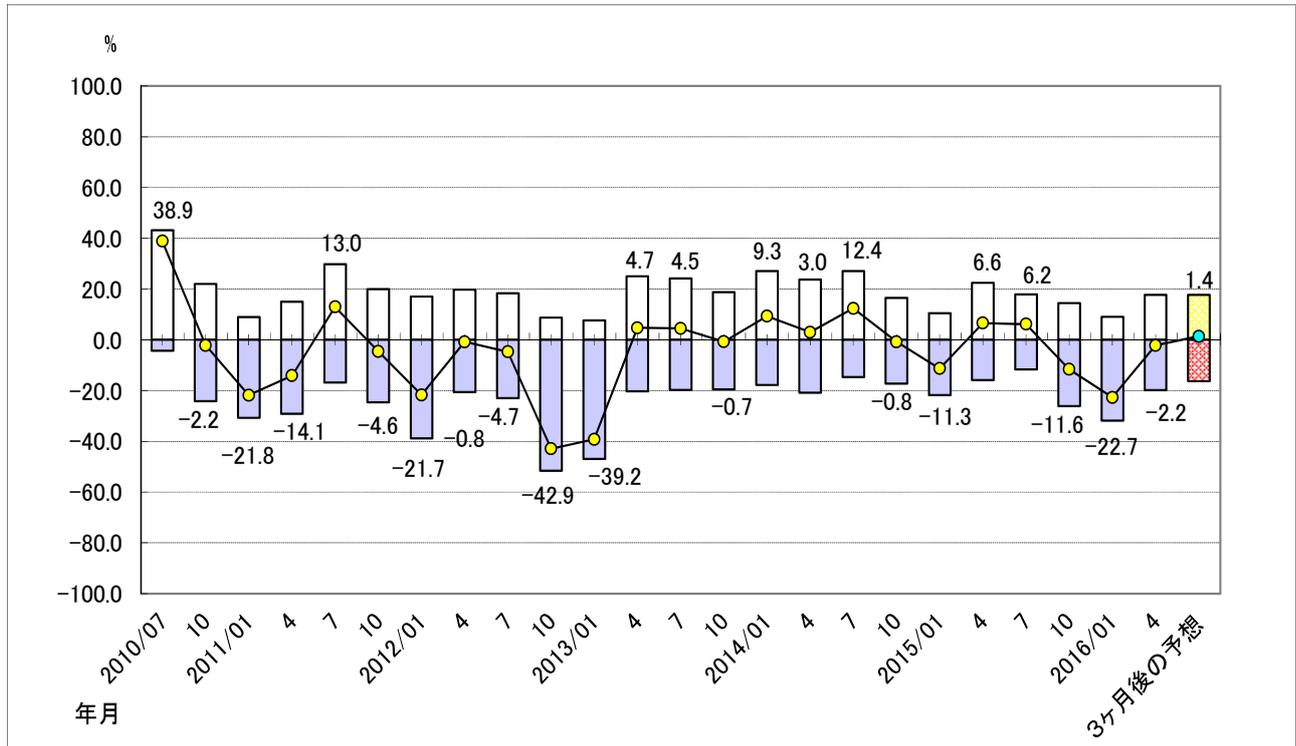
● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



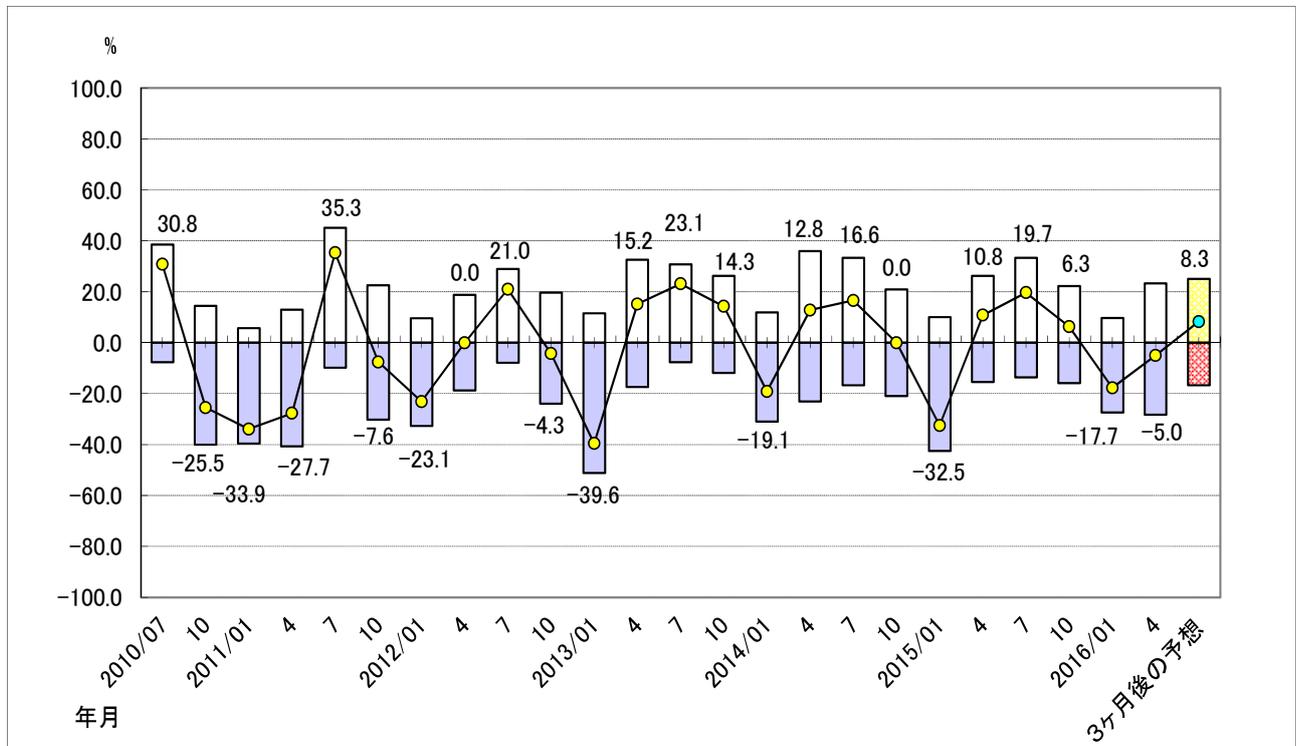
●製造業:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で△2.2と、前回調査時の△22.7から20.5ポイント改善した。「前年同期」比も△7.8で、前回の△15.9から8.1ポイント改善した。「3ヶ月後」の予想は1.4で、前回の1.5とほぼ同様になっている。

受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて1.4と、前回の△28.0から29.4ポイント改善した。「前年同期」比は前回の△18.9から△8.5へ改善し、「3ヶ月後」の予想DIは2.8で、前回の△1.5から改善している。

収益性DIは、「3ヶ月前」比で△9.9と前回の△24.2から14.3ポイント改善した。「前年同期」比では前回の△18.9から△17.7へ1.2ポイント改善した。「3ヶ月後」の予想は△3.5で、マイナス水準ながら前回の△8.4より4.9ポイント改善している。

電力や燃料などのエネルギーコストは3ヶ月前に比べて14.9%、前年同期比では25.5%の企業が低下した。3ヶ月後は82.3%が横這で推移するとみている。電力小売り自由化への対応は「現状で不自由がなく静観する」「工場の安定稼働が最優先で供給先は変更しない」「社内で検討していない」などの声が多く、現段階では積極的に取り組む企業は少数となっている。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「金属製品」が△5.0(前回△25.0)、「輸送用機械」は△6.2(同△28.6)、「電気機械」が△13.8(同△26.6)、「一般機械」は△11.4(同△14.3)と改善し、「精密機械」が0.0(同0.0)で同水準で推移した。

「前年同期」比では「金属製品」が△15.0(同△20.0)、「輸送用機械」が0.0(同△21.4)、「一般機械」は2.8(同0.0)、「電気機械」が△20.7(同△30.0)と改善したが、「精密機械」は7.7(同9.1)でやや悪化した、

「3ヶ月後」の予想DIは、「金属製品」は20.0(同0.0)、「精密機械」が△7.7(同△9.1)、「輸送用機械」は△6.3(同△14.3)と改善し、「一般機械」が△11.4(同2.9)、「電気機械」が△3.5(同3.4)と悪化した。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	141	17.7	62.4	19.9	-2.2	141	22.7	46.8	30.5	-7.8	141	17.7	66.0	16.3	1.4	
規模	1~29人	73	13.7	60.3	26.0	-12.3	73	20.5	45.2	34.2	-13.7	73	8.2	72.6	19.2	-11.0
	30~99人	48	25.0	58.3	16.7	8.3	48	27.1	45.8	27.1	0.0	48	25.0	64.6	10.4	14.6
	100人~	20	15.0	80.0	5.0	10.0	20	20.0	55.0	25.0	-5.0	20	35.0	45.0	20.0	15.0
分類	金属製品製造業	20	20.0	55.0	25.0	-5.0	20	10.0	65.0	25.0	-15.0	20	30.0	60.0	10.0	20.0
	一般機械器具製造業	35	14.3	60.0	25.7	-11.4	35	25.7	51.4	22.9	2.8	35	5.7	77.1	17.1	-11.4
	電気機械器具製造業	29	10.3	65.5	24.1	-13.8	29	27.6	24.1	48.3	-20.7	29	17.2	62.1	20.7	-3.5
	輸送用機械器具製造業	16	18.8	56.3	25.0	-6.2	16	31.3	37.5	31.3	0.0	16	12.5	68.8	18.8	-6.3
	精密機械器具製造業	13	15.4	69.2	15.4	0.0	13	30.8	46.2	23.1	7.7	13	15.4	61.5	23.1	-7.7

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて $\Delta 5.0$ で、前回調査時の $\Delta 25.0$ から改善した。「前年同期」比も $\Delta 15.0$ (前回 $\Delta 20.0$)でやや改善し、「3ヶ月後」の予想は 20.0 前回(0.0)と好転予想が増えている。受注には波があるものの、主力取引先からの受注が回復したり、海外に流れた製品が品質上の理由で戻り始めているケースもある。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて $\Delta 11.4$ で、前回の $\Delta 14.3$ からわずかに改善した。「前年同期」比は 2.8 で前回(0.0)より改善しているが、「3ヶ月後」の予想は $\Delta 11.4$ と前回の 2.9 から悪化している。大手企業の設備投資に伴い堅調に推移する企業一方で、中国、新興国経済減速の影響や円高傾向で、先行きに不透明感を持つ企業もある。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で $\Delta 13.8$ と、前回の $\Delta 26.6$ より改善し、「前年同期」比も $\Delta 20.7$ で前回($\Delta 30.0$)より改善傾向となっている。ただ、「3ヶ月後」の予想は $\Delta 3.5$ で、前回の 3.4 から悪化した。一部、プリンター関連や携帯電話関連などで好調な企業があるが、iPhoneの売れ行き低迷などの影響を受ける企業もあり、総体的には回復基調には至っていない。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて $\Delta 6.2$ で、前回の $\Delta 28.6$ から改善した。「好転」企業が前回の 7.1% から 18.8% に増え、「悪化」企業が前回の 35.7% から 25.0% に減少した。「前年同期」比は 0.0 で、前回の $\Delta 21.4$ から改善した。「3ヶ月後」の予想も $\Delta 6.3$ で、水面下ながら前回の $\Delta 14.3$ から改善傾向となっている。ただ、自動車関連は、国内、海外とも総体的に生産が減少する中で、熊本地震や三菱自動車の燃費データ不正問題が起きたことで、今後への影響を懸念する企業も多い。船外機は2ストロークエンジン主体の新興国向けは安定している。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて 0.0 で、前回と同率だった。「前年同期比」は 7.7 (前回 9.1)、「3ヶ月後」の予想は $\Delta 7.7$ (前回 $\Delta 9.1$)とほぼ横這で推移している。医療用、研究機関向け高難度加工レンズは堅調。業界内では技術力に格差があり、国内の安価で簡単な加工受注は減少傾向となるうえ、大手企業からの一層のコストダウン要請もある。光ファイバー業界は総体の仕事量が多く、おおむね好調に推移すると見られる。

②規模別業況

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「1~29人」規模は前回の $\Delta 28.6$ から $\Delta 12.3$ 、「30~99人」規模は

前回の△15.9から8.3、「100人以上」規模は前回の△16.7から10.0で、それぞれ改善した。「前年同期」比は「1～29人」規模が△13.7で前回の△10.0から悪化、「30～99人」規模が0.0で前回の△20.5から改善し、「100人以上」規模も△5.0で前回の△27.8より改善した。「3ヶ月後」の予想は、「1～29人」規模が△11.0で前回の△4.2より悪化した、「30～99人」規模は14.6で前回の9.1から改善し、「100人以上」規模も15.0で前回の5.6より改善した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、「増加」企業25.5%、「減少」企業24.1%で1.4と、前回調査時の△28.0から改善している。「前年同期」比は△8.5で前回の△18.9から改善した。「3ヶ月後」の予想は「増加」が「減少」を上回る2.8で、前回の△1.5から改善している。

規模別の受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人企業」は△5.5で、前回の△34.3から改善した。「30～99人企業」も12.5で、前回の△25.0から改善、「100人以上企業」は0.0で前回の△11.1から改善している。「前年同期」比では「1～29人企業」が△15.1で前回の△17.2とほぼ同水準で、「30～99人企業」は△4.2で前回の△25.0から改善し、「100人以上企業」も5.0で前回の△11.1から改善している。「3ヶ月後」の予想は「1～29人企業」が△12.3で前回の△5.8から悪化した、「30～99人企業」は前回の4.5から16.7へ改善した。「100人以上企業」は25.0で前回の0.0から改善した。

業種別(主要5業種)の「3ヶ月前」比は、「金属製品」が前回の△45.0から△5.0、「一般機械」は△22.9から△11.4、「輸送用機械」は△28.6から6.2、「精密機械」は0.0から15.4、「電気機械」は△23.3から△10.4へ改善した。「前年同期」比は、「輸送用機械」が△35.8から△6.2、「一般機械」が△17.1から0.0、「金属製品」は△35.0から△15.0と改善したが、「電気機械」は△20.0から△31.0、「精密機械」は36.4から7.7へ悪化した。「3ヶ月後」の予想は、「精密機械」が前回の△18.2から7.7、「金属製品」が△15.0から20.0、「輸送用機械」は△7.1から△6.2、「電気機械」は3.3から10.4へ改善したが、「一般機械」は前回の△2.9から△11.5へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

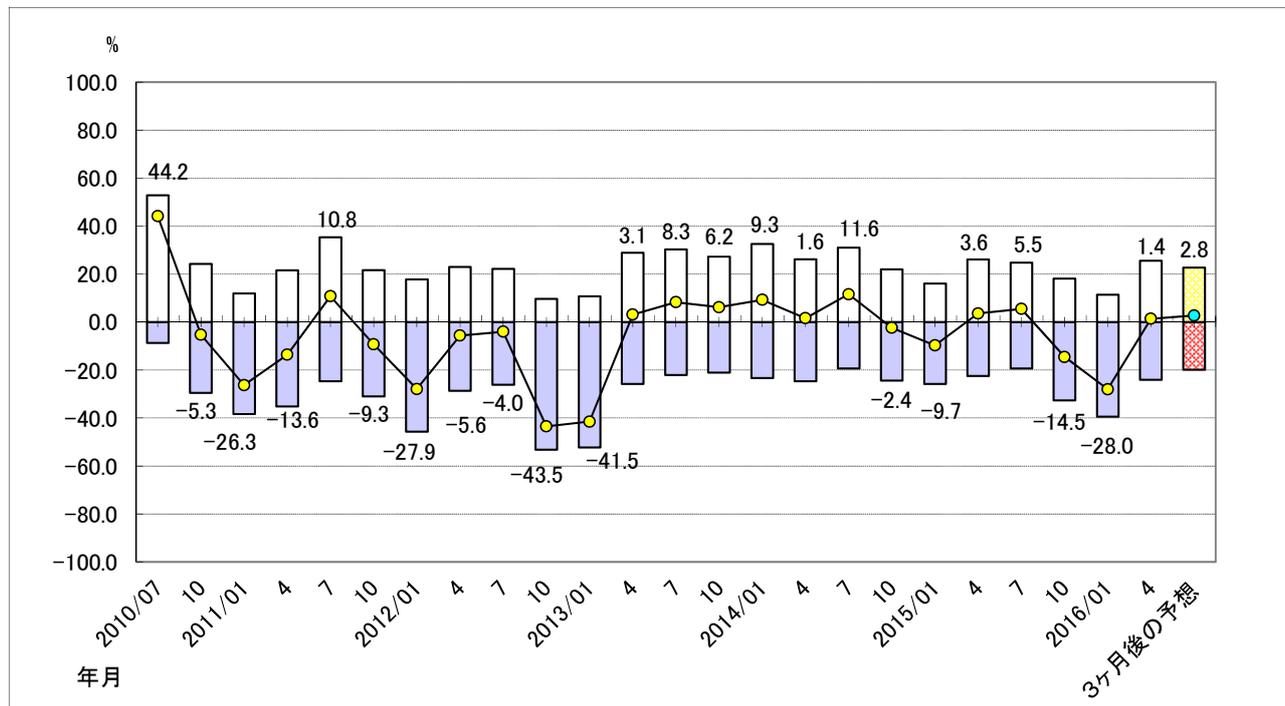
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	141	25.5	50.4	24.1	1.4	141	24.1	43.3	32.6	-8.5	141	22.7	57.4	19.9	2.8	
規模	1～29人	73	23.3	47.9	28.8	-5.5	73	21.9	41.1	37.0	-15.1	73	15.1	57.5	27.4	-12.3
	30～99人	48	31.3	50.0	18.8	12.5	48	25.0	45.8	29.2	-4.2	48	27.1	62.5	10.4	16.7
	100人～	20	20.0	60.0	20.0	0.0	20	30.0	45.0	25.0	5.0	20	40.0	45.0	15.0	25.0
中分類	金属製品製造業	20	25.0	45.0	30.0	-5.0	20	15.0	55.0	30.0	-15.0	20	35.0	50.0	15.0	20.0
	一般機械器具製造業	35	20.0	48.6	31.4	-11.4	35	28.6	42.9	28.6	0.0	35	11.4	65.7	22.9	-11.5
	電気機械器具製造業	29	24.1	41.4	34.5	-10.4	29	20.7	27.6	51.7	-31.0	29	27.6	55.2	17.2	10.4
	輸送用機械器具製造業	16	25.0	56.3	18.8	6.2	16	18.8	56.3	25.0	-6.2	16	18.8	56.3	25.0	-6.2
	精密機械器具製造業	13	38.5	38.5	23.1	15.4	13	38.5	30.8	30.8	7.7	13	30.8	46.2	23.1	7.7

製造業の受注状況DIの推移

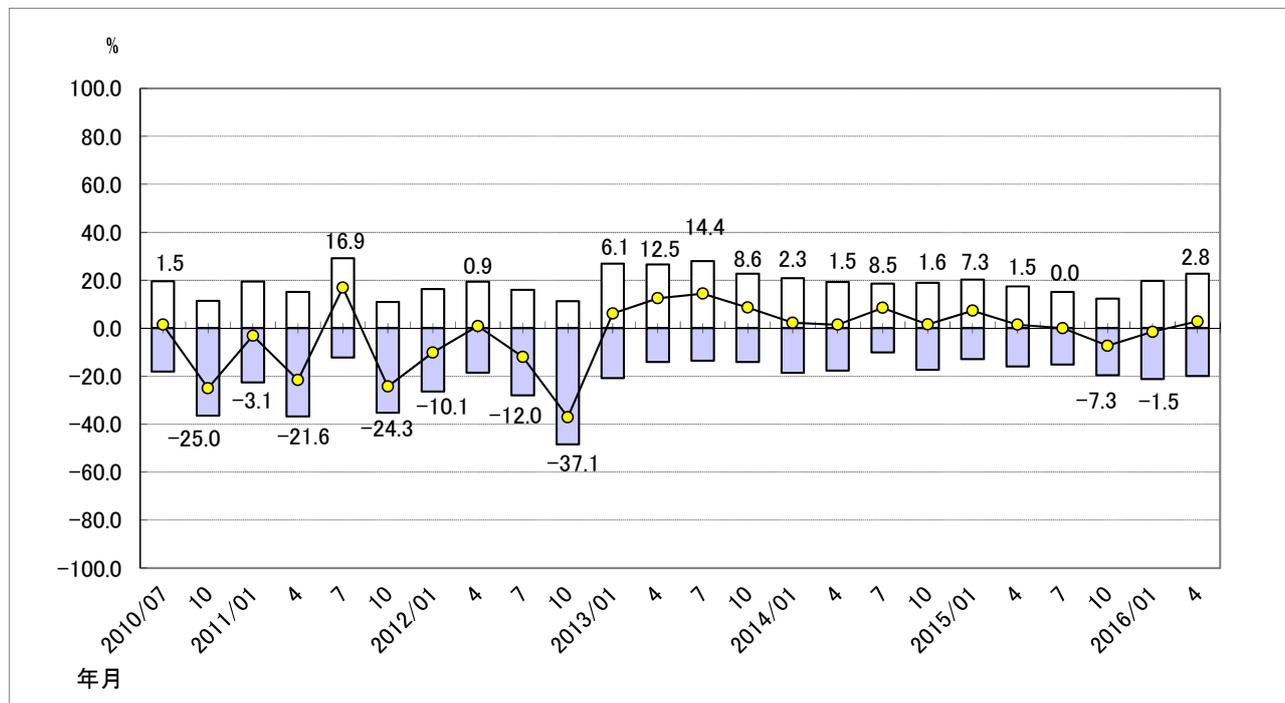
● 製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



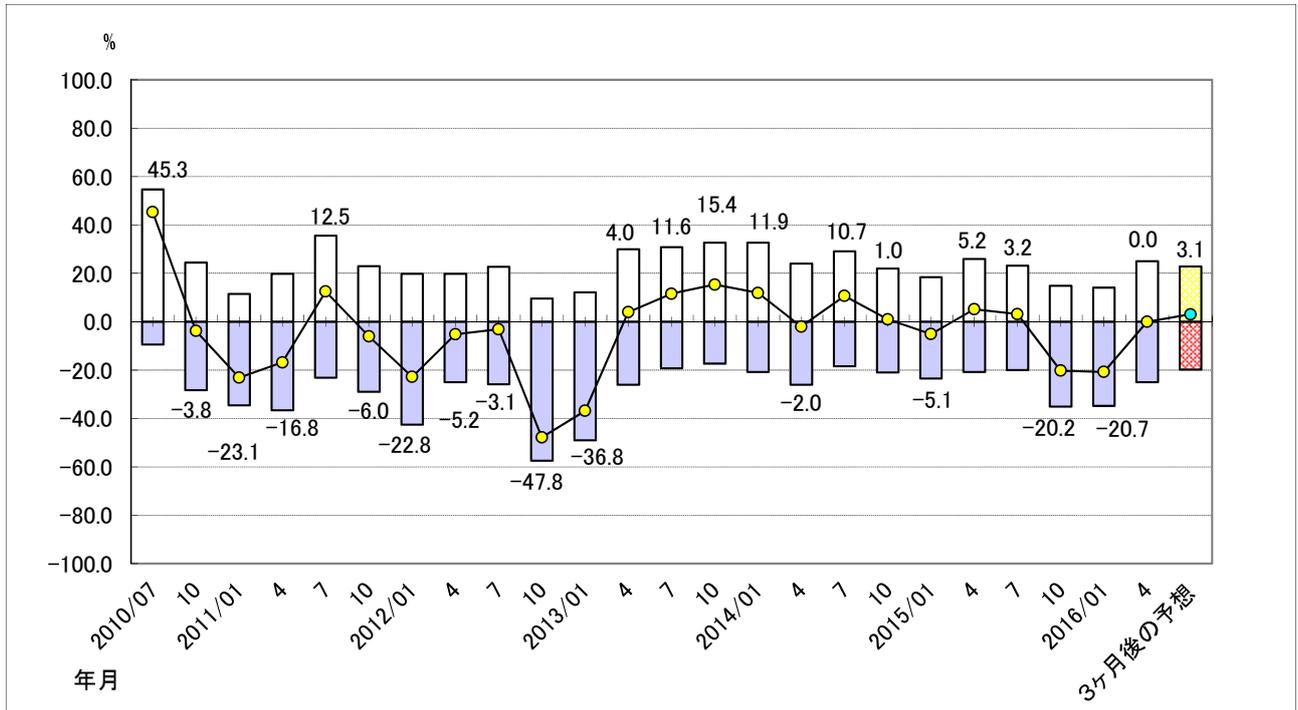
● 製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



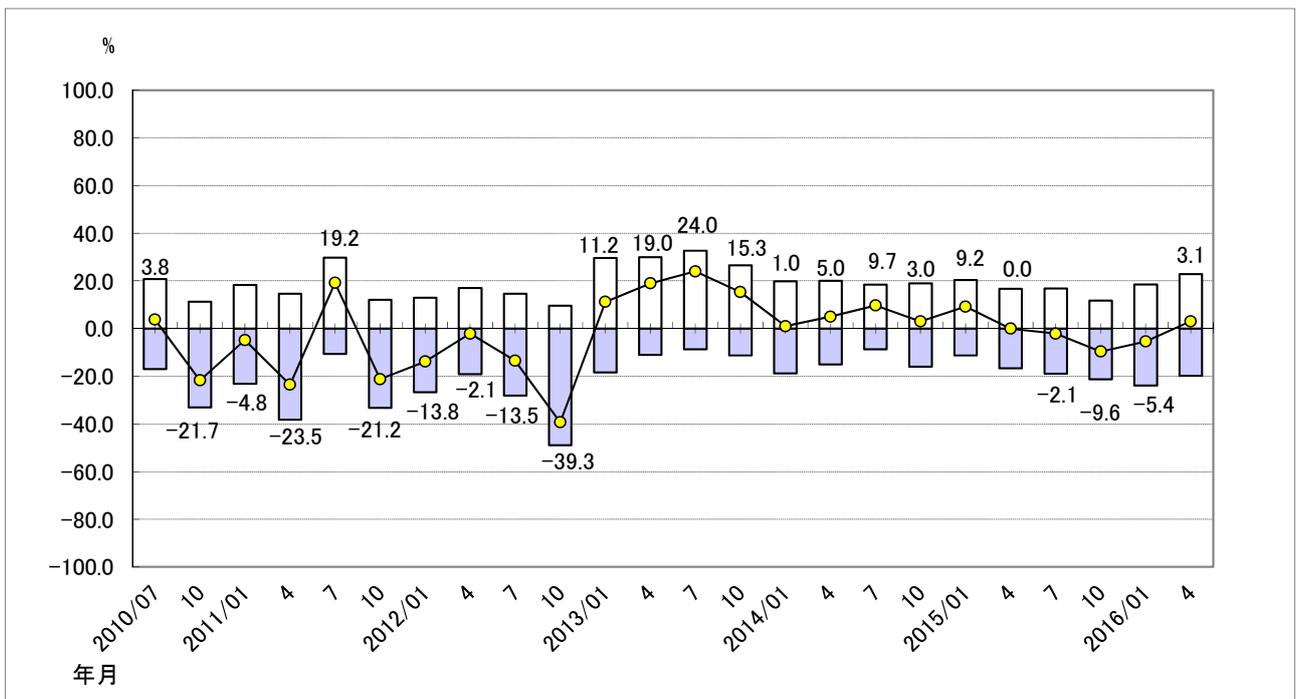
●製造業 主要5業種:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2.商業・観光サービス業

①商業

業況判断DIは「前年同期」比で 3.4 と、前回の△6.6 から改善した。来店客数DIは「3ヶ月前」比で前回の△40.0 から 6.9 と改善しているが、「前年同期」比では△13.8 と前回の△16.7 からわずかな改善にとどまっている。客単価DIは「3ヶ月前」比で前回の△3.3 から 20.7 へ改善した。「3ヶ月後」の業況予想DIは 6.9 で前回の 6.6 とほぼ同様に推移し、収益性予想DIは 13.8 で、前回の△3.3 から改善予想の企業が増えている。

- 食料品 御柱需要で惣菜関係、水産関係、飲料水、ビールなどの売上が好調だった。地震報道で個人客の水の箱買いも見られた。
- 衣料品 御柱関連の法被、タオル、手ぬぐいなどの売上が好調だった。ただ、前回の御柱祭時と比べると低調だった店舗もある。
- 自動車 長野県内の 4 月の新車新規登録・届出台数は登録車が 3,905 台で 3 ヶ月連続減少し、軽自動車は 2,905 台で 16 ヶ月連続減少した。全体では 8 ヶ月連続で減少した。
- 家電店 テレビ関連に動きがあったものの、御柱祭がマイナス影響となった店舗がある。
- ホームセンター 園芸や新生活用品、御柱祭の来客を迎えるためのエクステリア用品が好調だった。

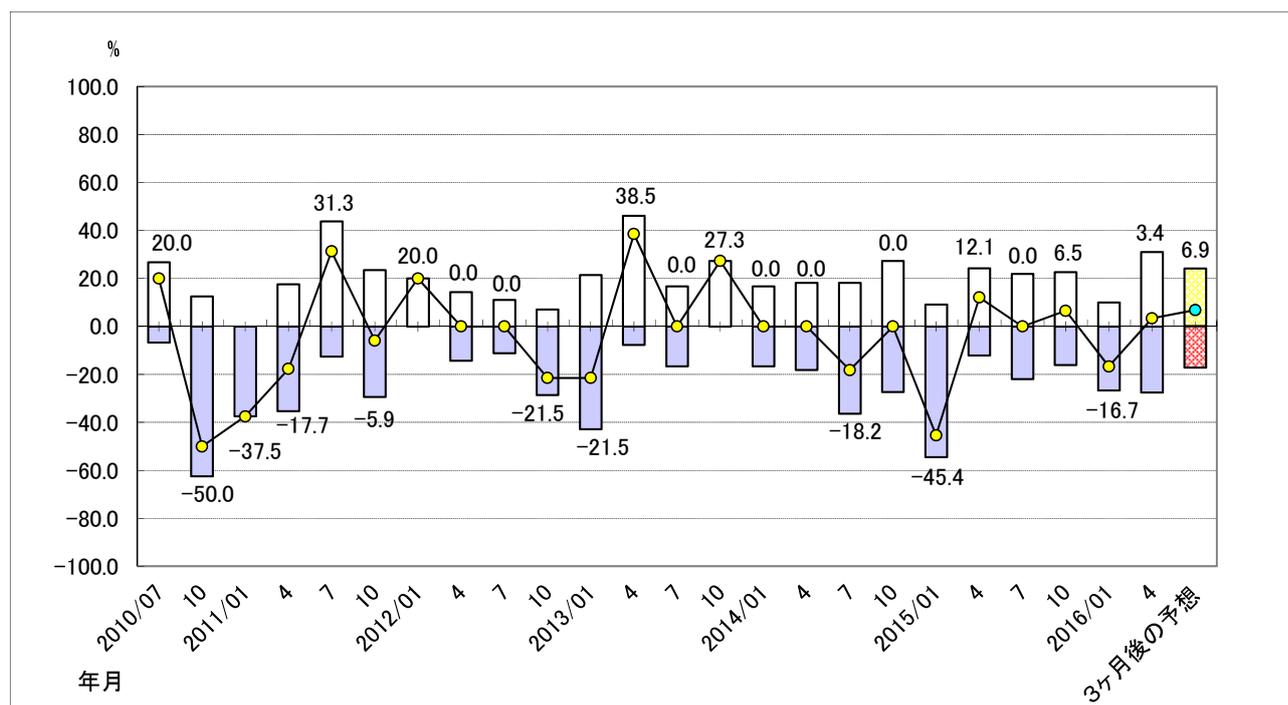
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	29	31.0	41.4	27.6	3.4	29	31.0	41.4	27.6	3.4	29	24.1	58.6	17.2	6.9
客単価	29	27.6	65.5	6.9	20.7	29	24.1	58.6	17.2	6.9	29	24.1	65.5	10.3	13.8
来店客数	29	37.9	31.0	31.0	6.9	29	20.7	44.8	34.5	-13.8	29	20.7	58.6	20.7	0.0

●商業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期」比で、宿泊客数DIは「好転」と「悪化」が同率で 0.0 だが、客単価DIが 18.8(前回△12.5)と高く、業況判断DIは37.5と、前回の0.0から大幅に改善した。御柱祭期間中、観光バスの入り込みが多く諏訪湖周辺の宿泊施設は満室状態となり、一部高原の施設にも流れた。富士見方面ではスキー場の閉場を遅らせ、スキー客を取り込んだ施設がある。本格的な観光シーズンとなる「3ヶ月後」の業況予想DIは18.7で、宿泊客数予想DIも25.0と好転予想が上回っている。

- 上諏訪温泉 4月の宿泊客数は前年同月をやや下回った。少人数の宿泊者が大幅に増加し、30人以上の団体客は落ち込みが大きい。インバウンドが大幅減少したことが、総体の減少要因となった。施設別では前年同月比60%台～110%台。熊本地震は国内旅行者について影響はないと見られる。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 例年4月は端境期となるが、満室状態の諏訪湖周辺の宿泊施設から流れた御柱祭関連の観光客があった。富士見方面では好天に恵まれゴルフ場が前年を上回った。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた4月の参拝者数は約7万人で、前年同月比約31千人の増加(81.7%)となった。

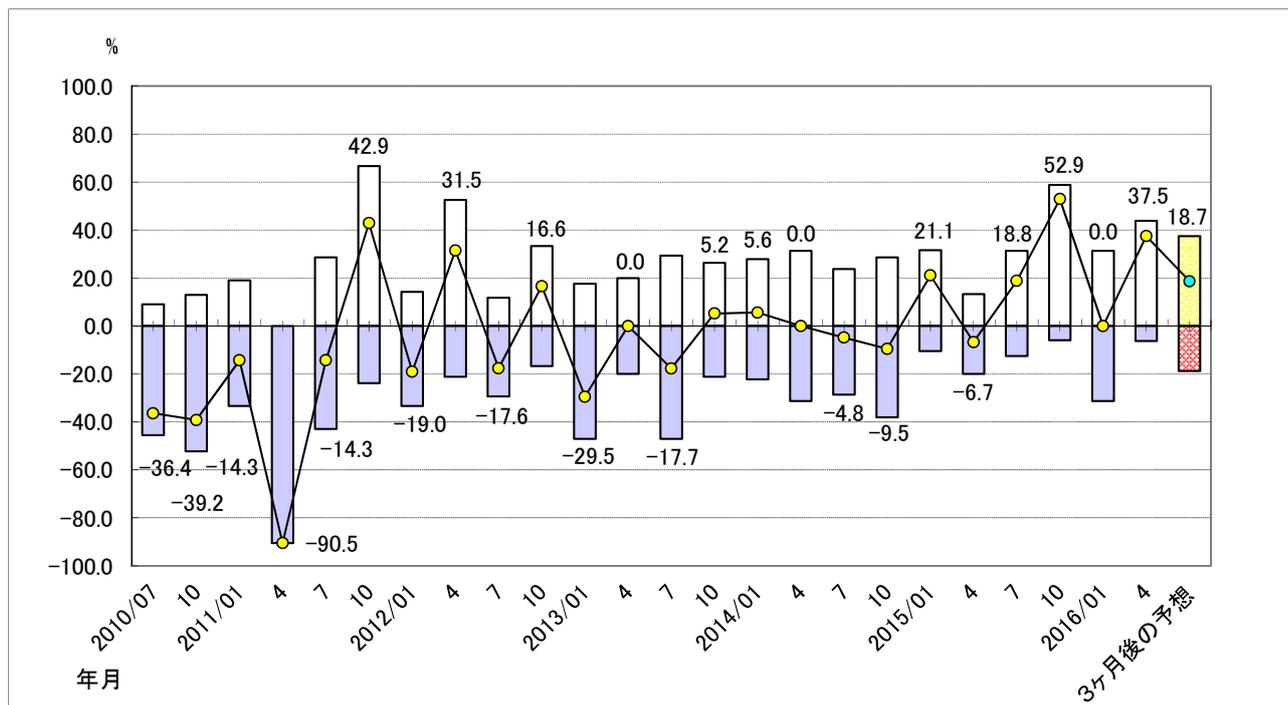
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	31.3	50.0	18.8	12.5	16	43.8	50.0	6.3	37.5	16	37.5	43.8	18.8	18.7
客単価	16	31.3	37.5	31.3	0.0	16	31.3	56.3	12.5	18.8	16	37.5	37.5	25.0	12.5
宿泊客数	16	31.3	37.5	31.3	0.0	16	25.0	50.0	25.0	0.0	16	43.8	37.5	18.8	25.0

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

例年、年度初めの公共工事は低調にスタートするが、今年は御柱祭が拍車をかけている。発注の減少や従業員のリバウンドなどで建設業にとって御柱祭は悪影響の面が強い。新築工事の見積りや受注予定先との請負契約が遅れている企業もある。収益性DIの「3ヶ月前」比も△33.3で前回の△18.8から悪化している。熊本地震は、直接的な影響は少ないものの、今後、国の予算配分が熊本優先になる影響を懸念する声は多い。ただ、3ヶ月後は業況判断、受注状況とも好転傾向となっている。

●建築工事

諏訪地方の平成28年3月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市10戸、諏訪市17戸、茅野市22戸、諏訪郡10戸の合計59戸だった。平成27年度1年間の合計は985戸で、前年度より7戸増加(0.7%)した。長野県全体の3月の新設住宅着工戸数は829戸で、前年同月比23.7%増加した。

●公共工事

平成28年4月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は0件だった。市町村からの4月の受注工事は前年同月比で、件数は2件減少し、契約金額は5百万円増加(2.1%)した。

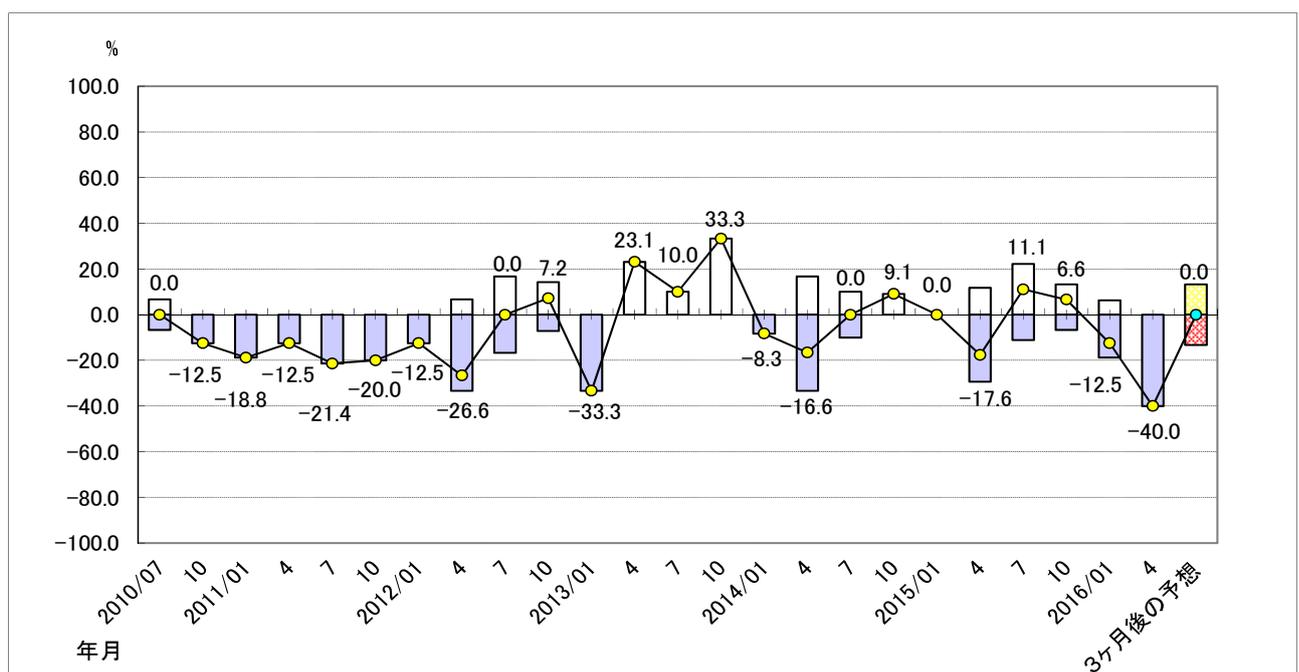
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	15	0.0	60.0	40.0	-40.0	15	0.0	60.0	40.0	-40.0	15	13.3	73.3	13.3	0.0
受注状況	15	13.3	40.0	46.7	-33.4	15	6.7	53.3	40.0	-33.3	15	20.0	53.3	26.7	-6.7
外注発注量	15	6.7	46.7	46.7	-40.0	15	0.0	46.7	53.3	-53.3	15	0.0	80.0	20.0	-20.0

●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



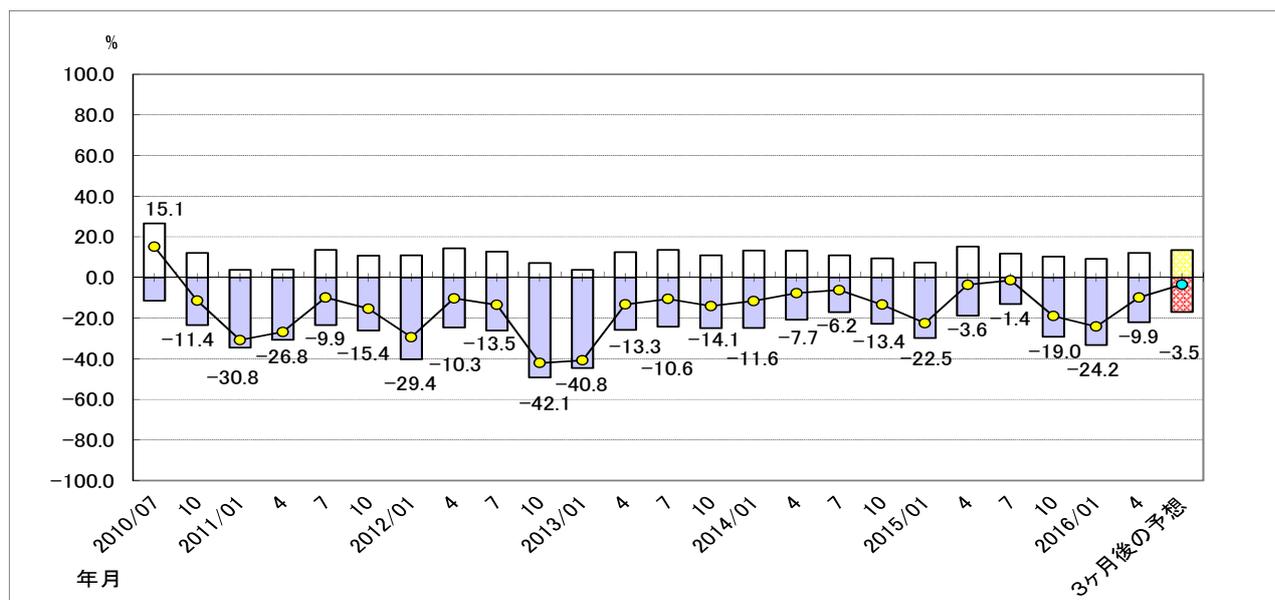
4.収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 14.4%、「悪化」企業 21.4%で、同DIは $\Delta 7.0$ と前回調査時の $\Delta 21.6$ から改善した。「前年同期」比は $\Delta 11.5$ で、前回の $\Delta 14.5$ よりやや改善した。「3ヶ月前」と比べた製造業は $\Delta 9.9$ で前回の $\Delta 24.2$ から 14.3 ポイント改善し、非製造業も 0.0 で前回の $\Delta 16.1$ から改善している。

「3ヶ月後」の予想DIは、製造業が $\Delta 3.5$ で前回の $\Delta 8.4$ から 4.9 ポイント改善し、非製造業は 11.6 で前回の 0.0 より改善している。回答全社では 1.0 で、前回の $\Delta 5.7$ から改善している。

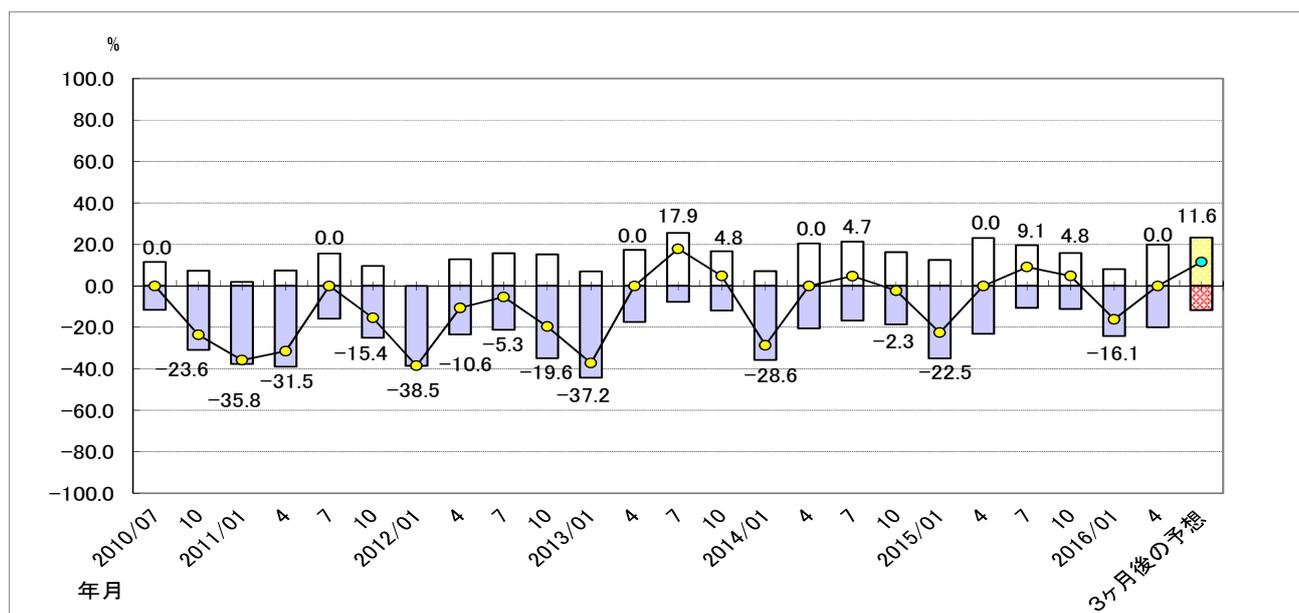
●製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は、売上減少と労働力確保②商業は競争激化と売上減少③建設業は、売上減少と労働力確保④観光・サービス業は労働力確保と人件費となっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	84	59	12	8	5
単価引下げ	38	30	2	2	4
競争激化	50	35	11	3	1
資金繰り	49	36	9	1	3
人件費	38	21	6	4	7
労働力確保	65	41	10	6	8

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【3月】	ハローワーク諏訪	1.26倍	0.10ポイント	
手形交換高【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	4,116枚	△1,552枚	
	金額	6,602百万円	△2,184百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	2枚	0枚
	金額	561千円	218千円	
電力使用量【4月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	58,381 MWh	0.5%	
	高压電力計	89,083 MWh	△5.5%	
	合計	147,464 MWh	△3.2%	
車庫証明取扱件数【4月】(諏訪地方合計)		818件	△8.2%	
新設住宅着工戸数【H27.4～H28.3】(諏訪管内)		985戸	0.7%	

7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 平成28年4月末。
- ② 調査内容 「平成28年4月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 アンケート調査(回答数 下記⑦)及びヒアリング調査(約130社)。
- ④ 対象地域 諏訪地域全域。
- ⑤ 業種 製造業、商業、建設業、観光・サービス業。
- ⑥ 回答企業数 201企業。
- ⑦ 回答率 80.4%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	170	40	20	20	250
回答数	141	29	15	16	201